

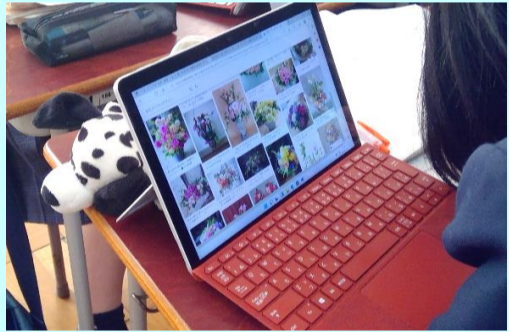
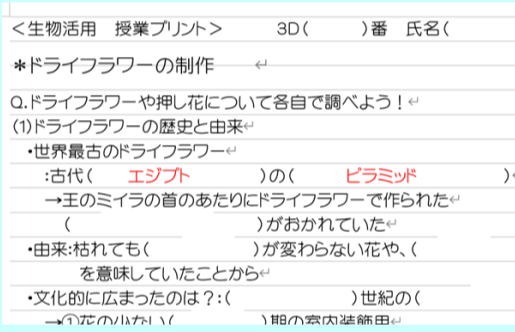


主体的・対話的で深い学びの実践シート（農業・水産）

1 日時・場所	令和4年11月17日（木）2限	3年D組教室
2 対象・人数	生活科学科3年D組 アグリフードコース 20名	
3 科目・単元名	生物活用	フラワーデザイン
4 本時の目標	ドライフラワーや押し花の由来，作成方法や活用方法などの学習を通して，草花の存在が生活の質の向上につながることを理解し，自らの手で身近な草花を活用する知識や技術を身に付ける。	
5 生徒の実態や課題	生活科学科3年生アグリフードコース選択者のため，草花の栽培や活用についての知識は少ない。事前アンケートにより「自分で草花を育てたことがある」と答えた生徒も少なかった。総合実習では草花と果樹を学習しているため，草花の栽培管理は行っているが活用方法についてどのように興味・関心をもたせるかが課題であり，基礎的な知識・技術の習得が必要である。	
6 主体的・対話的で深い学びの場面	(1) 私たちの生活に馴染んでいるドライフラワーの歴史や由来，作成方法についてタブレット端末を使用し調べ学習を行う。 →教科書には記載されていない内容を主体的に考え，各自で調べる。 (2) 生花を使用するフラワーデザインとの違いを考察し，具体的な活用の場面をグループで話し合う。 →前時までに学習したアレンジメントやブーケなど，生花とドライフラワーとの違いについて自己の経験を基に話し合う。	
7 ICT活用	タブレット端末を活用した効果的な学び ・インターネットを使った調べ学習 ・書画カメラによる投影 ・プロジェクターの利用	
8 準備・打ち合わせ	使用機器：生徒用タブレット端末，プロジェクター 教材：教科書「生物活用」(実教出版)，プリント 参考資料：ドライフラワーの見本，ハーバリウムなどのフラワーデザインの見本	
9 仮説	ICT機器を活用し調べ学習を行なう場面において，教科書には記載されていない内容について主体的に考え，各自で調べる。また，自己の経験を基に活用の場面などについて話し合うことによって，草花の存在が生活の質の向上につながることを理解し，自らの手で身近な草花を活用する知識の定着や技術の習得につながるだろう。	

10 評価するポイント	評価の観点	A (十分に満足)	B (おおむね満足)	C (努力を要する)
ドライフラワーの歴史や由来について調べることができる。また、作成方法について使用する資材とともに検索し、まとめることができる。	知識・技術	歴史や由来について調べ、その内容を詳しくまとめることができる。作成方法を理解し、資材や方法についてまとめることができる。	歴史や由来を検索することができ、内容を書き写すことができる。作成方法を検索し、書き写すことができる。	歴史や由来を検索できない。作成方法や資材を見つけることができない。
生花を使用する場合との違いを比較し、活用の場面を自己の経験を基にグループ内で話し合うことができる。	主体的に学習に取り組む態度	違いを多数記入し、グループ内で積極的に自己の経験や意見を話すことができる。	気が付いた違いを数点記入し、意見を話すことができる。	違いを見つけることができない。自己の経験から意見を考えることができない。
11 主体的・対話的で深い学び場面など	 	<p>①各自での調べ学習 多くの生徒が、主体的に考え調べ学習を行うことができた。遅れている生徒にはキーワードなどの助言を行った。</p>	<p>②グループワーク 各自で調べた内容を話し合う様子。具体的なフラワーデザインの名称が飛び交うグループもあった。</p>	
		 <p>③画像や動画による視覚的理解 実物に近い状態を見ることができ、理解が深まった。</p>	 <p>④プロジェクターの活用 時間短縮のため、答え合わせの際にプリントを映写した。</p>	
12 生徒の変容	<p>1 学期後半から、毎時間タブレット端末を使用した調べ学習を取り入れるようにしたところ、自発的に画像を探したり、友人と共有して会話で話題にしたりするなど、主体的に調べ学習に取り組むことができる生徒が増えた。また、実物に近い状態を画像や動画を通して確認することができるため、視覚的理解が深まり、興味や関心をもって取り組む様子が見られた。</p> <p>学習が進むにつれて、生徒の中で「ハーバリウム」や「スワッグ」など、最近話題のフラワーデザインの名称を活用する場面の発言があり、積極的に意見交換ができていた。</p> <p>アンケートから、多くの生徒が草花の存在が暮らしに必要であることを理解していた。また将来活用してみたいと感じている生徒も多く、生活の中で学びを生かそうとする姿を見取ることができた。</p>			
13 検証と考察	<p>毎時間タブレット端末を使用することで、各自で検索用語を考えながら用語を変えて繰り返し検索するなど、スムーズに調べ学習ができるようになった。また、画像や動画を通して視覚的理解が深まるため興味・関心が高まり、自発的な行動ができていたことから、主体的な学びにつながっていると考える。</p> <p>自己の経験を基に活用の場面などについて活発に話し合うことができた。歴史や由来を知ることで、古くから草花の存在が生活を豊かにしていることを理解し、草花を活用する知識を得ることができた。しかし、技術の習得には、実際に草花に触れる、作ってみるなど実技の時間と経験が必要である。</p>			
14 振り返りと改善	<p>歴史や由来について調べることはできたが、作成方法までじっくり調べることができなかった。テーマを決め、調べる項目を限定することで時間に余裕が生まれ、より深く調べ学習を行う事ができると考える。</p> <p>ペアで話しているところが数人あり、グループ全員での話し合いができていないところがあった。話し合うテーマや進行役を決めておくとスムーズにグループワークが進むと考える。グループワークの状況による適切な言葉かけのスキルアップが必要だと感じた。</p> <p>実物と併用することで更に関心が深まることが確認できた。今後は実技を実施し、自らの手で身近な草花を活用する知識や技術を身に付けられる機会を設定したい。</p>			